

冬季における転倒災害の特徴

特徴 1

事故の4割が60歳以上

冬季転倒災害の約4割は60歳代以上が被災者です。50歳代以上では全体の約7割にもなりません。高年齢労働者は筋力や体力の衰えによって被災しやすいことに加え、休業が長期化しやすい傾向にもあるため、徹底した対策が必要です。

特徴 2

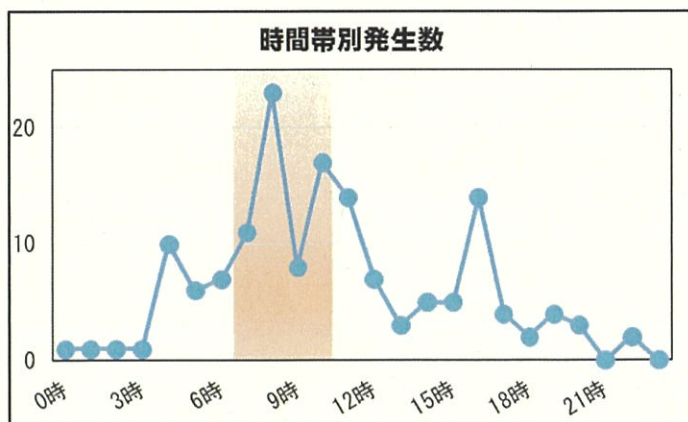
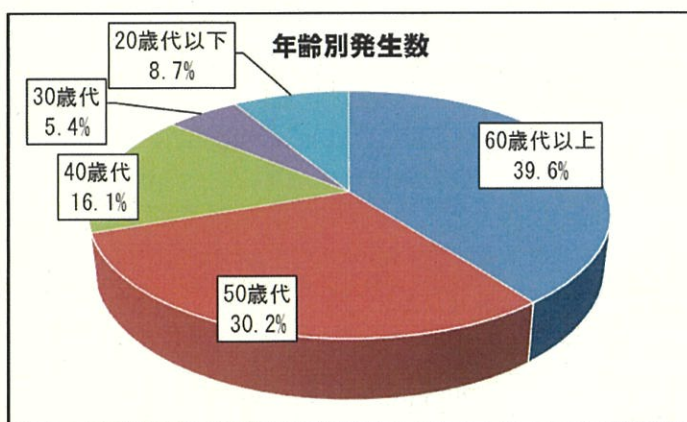
朝の通勤時間帯に特に多い

通勤時間帯は、夜のうちにできた凍結面等が日光で少し溶けていることがあり、より滑りやすくなっています。また、日中の仕事をされている方の場合、体が完全に覚醒していない時間帯でもあるため、特に注意が必要です。

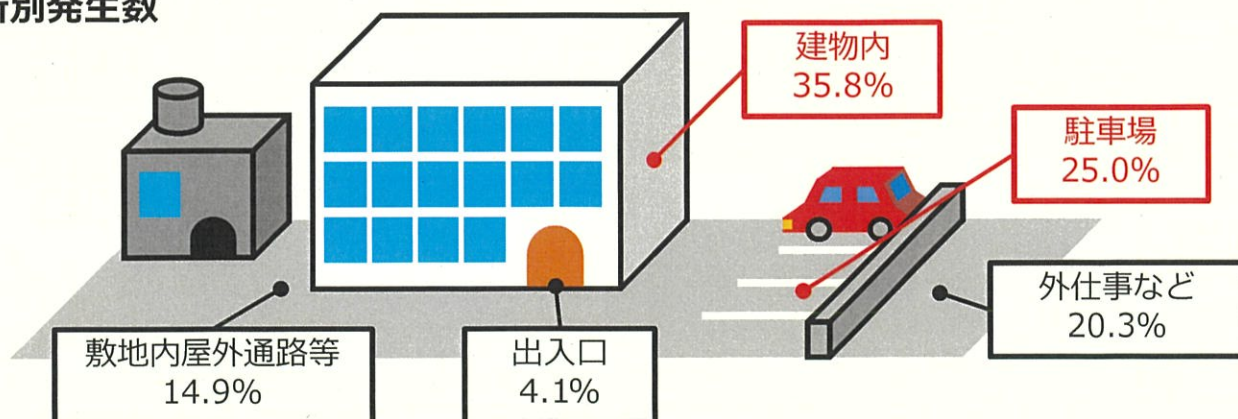
特徴 3

事故の約8割が事業場の敷地内

事業場の中では、特に建物内や駐車場での割合が高くなっています。建物内では、外から持ち込まれた雪や水分で転倒しているケースが多く、駐車場では、降車時に足下の確認が疎かになる、照明がなく暗い、急いでいる状況等の特徴が見られる事故が多くなっています。事業場においては、これらの特徴を踏まえた対策が必要です。



場所別発生数



※上記データは、平成31年1月及び2月の長野県内で発生した転倒災害の発生状況（確定値）からまとめたものです。